

## 地域社会とともに

### 米州での社会貢献活動

#### 親の職場を社会見学

##### 職場に子供たちを招待し、独自のプログラムで子供たちの記憶に残る一日に

アメリカでは毎年4月の第4木曜日を「Take Our Daughters and Sons to Work Day」と定め、親が職場に子供を連れてきてても良い日となっています。これは子供たちに様々な仕事があることを知ってもらう機会になればと、1993年に女性を支援する非営利団体Ms. Foundation for Womenの呼びかけで始まったものです。

アメリカの販売拠点であるブラザーインターナショナルコーポレーション(U.S.A.)(以下、BIC(USA))では、未来を担う子供の教育を通して、地域の社会貢献にもつながるこの活動に参加しようと、ニュージャージーとカリフォルニアの両オフィスが共同でボランティアチームを結成。2014年3月から準備し、約2か月でブラザー製品の紹介資料や職場見学のプログラムを作成しました。

当日は、ニュージャージーとカリフォルニアの二カ所で、合わせて100名以上の子供たちが参加しました。各地とも、従業員がブラザーのプリンターで印刷したロゴ入りのバックパックやTシャツ、写真付きIDバッジを身に着け、社内見学ツアーをスタートしました。

ゲーム・プリンターのデモンストレーションでは、子供たちに名前入りのバンダナがプレゼントされるなど、ブラザー製品を使ったさまざまな体験教室が開催されました。カッティングマシンを利用して写真フレームを作ったり、ラベルライターで作ったラベルで植木鉢カバーを装飾するなど子供たち自らが作って楽しみました。

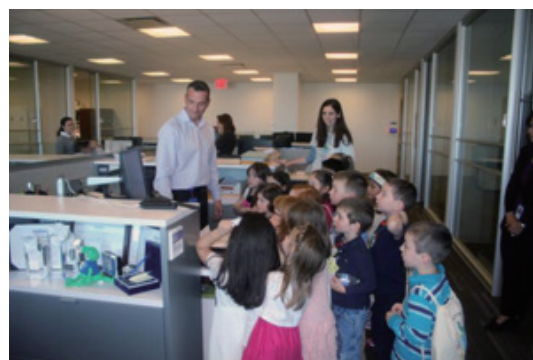
プログラムの最後には、残りの時間を社内で働く自分の両親や祖父母と過ごしました。イベントを終え、BIC(USA)代表取締役社長の池田が挨拶し「たくさんの子供たちに来てもらい、ご両親や従業員の皆さんと一緒にこんなにも楽しい日を過ごすことができたのは、素晴らしいことです。子供たちみんなから、あふれる元気や笑顔をたくさんもらいました」と感謝の言葉を述べました。

子供が参加した従業員からは「私の娘は、イベントのあったその日の間、Tシャツを脱ごうとはしませんでした」「ブラザー製品が誕生日のプレゼントリストに入りました」という嬉しい声も。従業員たちに高く評価してもらえたこと、楽しくて魅力のあるイベントを成功させたことに、担当者も誇りを感じています。来年はアメリカのすべての拠点で、この活動を実施することが目標となりました。

子供たちにとって地域社会で働く大人と出会い、ブラザーの製品や技術に触れたことは、学校ではできない貴重な経験となりました。この活動を通し、子供たちの将来の選択肢がひとつでも増えることを願いながら、これからも積極的に地域の学校教育に貢献していきたいと考えています。



この日のために用意したオリジナルのTシャツを着た子供たち



社内ツアーでは、実際の仕事を子供たちが訪問



構造や性能を紹介するプリンター体験教室も実施